

小学生の放課後の安全な居場所

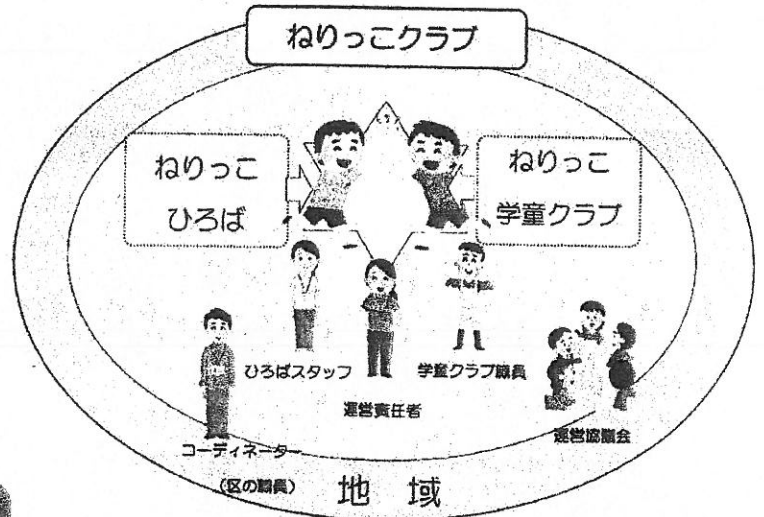
# ねりっこクラブを進めています!

<ねりっこクラブは小学校を拠点としたすべての児童の放課後や長期休業期間中の居場所です>

「学童クラブ」と実施校の児童が誰でも利用できる「ひろば事業」、それぞれの機能や特色を維持しながら運営を一体的に行っています。

現在は8校で実施しており、来年4月からはさらに5校（春日小、谷原小、北原小、立野小、富士見台小）で実施します。

将来的には全小学校で実施します。



## <ねりっこクラブの3つの特色>

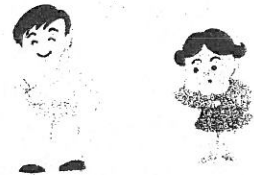
様々な学年の子供たち、ひろばスタッフ、学童クラブ職員、地域の方々等…多様な関わりの中で、子供たちの遊びや経験が広がります。

学校施設を活用して、学童クラブの受け入れ人数も増やします。

夏休み等、学校が長期休業の間もすごせる居場所です。

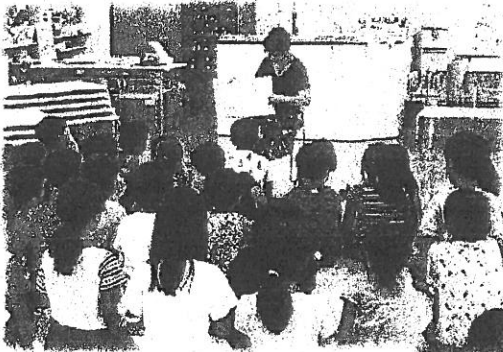


← 校長先生にもご協力いただいた「じゃんけん大会」



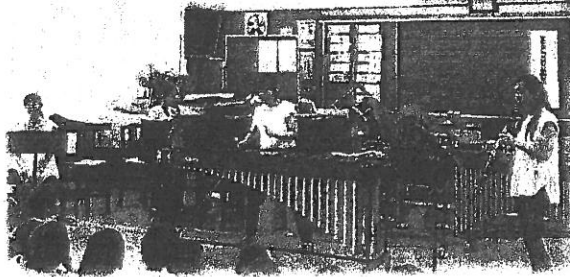
夏休みには  
広～い校庭で  
← 思いっきり水遊び! →





↑ 地域の方による読み聞かせ

↑ ソフトバレーボールタイム  
(ひろばスタッフのアイディア)



今回は、学校や地域の皆様のご協力による夏休み中のイベントの様子を中心に紹介しました。

ねりっこクラブは、様々な大人の見守りのもと、子供たちはのびのびと自由な時間を過ごしています。

↑ 地域の方と一緒に音楽会

【問合せ】 ことども施策企画課 放課後児童対策担当係 [電話 5984-1519]

### 《地域の方々の支えのもとで子供たちは成長します》

ねりっこクラブは、引き続き学校応援団をはじめとした地域の方々にご協力をいただきながら実施しています。子供たちが地域の中で安心して過ごし、成長していくには地域の方々の目は大変重要です。毎年、学校応援団の方々を対象に行っている研修では、地域の大人が子供たちにかかわることの意義をテーマとした講座を実施しています。

昨年度の研修で、淑徳大学短期大学部の山田修平先生のお話しを紹介します。



### 子供たちにとって地域の方々は「第三の大人」です



山田修平先生

子供は、未知の世界や体験にふれ、自己の世界が広がることで成長します。そのためには未知の世界を知る他者であり、ガイドとしての大人の存在が重要となります。しかし、現代の子供は大人とかかわる機会が少なくなっています。携帯電話やSNSの普及により地域のつながりがなくても孤独にはなりません。そのため、子供たちは他者との関係を築く経験を持ちづらく、「成長力」も弱くなっています。こうした環境の中で、親でも先生でもない「第三の大人」の存在は非常に重要です。親や先生のアドバイスは関係性が強すぎて素直になれないこともあります。大人であれば誰でもいいわけではなく、日頃の関わりがあるからこそ、親密感や安心感をもって接することができます。

私たちにとって「第三の大人」はどのような人だったでしょうか。面白い人、新しいことを教えてくれる人、辛い気持ちを打ち明けられる人など・・・。

いまの子供たちにとって、このような方がどれだけいるかを考えると、学校応援団をはじめとした地域の子供たちを支えていただける方々の存在は、非常に貴重で重要です。



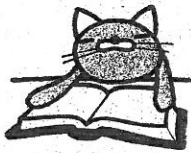
平成28年度の講義の様子

【問合せ】 子育て支援課 学校応援団・開放係 [電話 5984-1057]

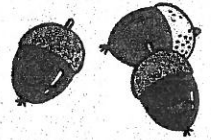
# 学校応援団の紹介 No.24



「学校応援団」は、地域の方々が「ひろば事業」「開放事業」など様々な事業を通じた児童の見守りや、学習・文化・スポーツ活動等の場としての施設開放を行っている団体です。今回は2校の学校応援団をご紹介します。



## 田柄第二小学校応援団 夏休み中の学校図書貸出し



田柄第二小学校の図書館開放事業は、校舎内の学校図書館とは独立した開放用の図書館で実施しています。平成28年度からねりっこクラブがスタートしたことに伴い、平日はねりっこクラブが貸出等の一部業務を行っています。図書の選定や登録などの全体的な管理は学校応援団により運営しています。夏休みは学校図書館が休館するため、夏季も子供たちがより多くの図書に触れられるよう開放用図書館に特設コーナーを設けました。学校図書館支援員のアドバイスを受け、課題図書や、工作・自由研究の助けとなる図書を中心に365冊を選び、学校の図書ボランティアの方々の協力も得ながら子供たちに提供しました。この日來館していた児童からは「遠くの区立図書館に行くには時間がないけれど、学校の図書館ならすぐに来られるので毎日来ている」との嬉しい声も聞かれました。田柄第二小学校応援団では、事業の一層の周知を図り、独自のアイデアによる事業に取り組み、精力的に活動しています。



開放用図書館の外観



自由研究に取り組み中

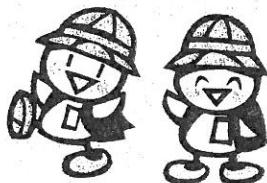


7月のおまつりではプラバン工作を指導

## 高松小学校応援団 児童の登下校の安全確保

高松小学校は平成29年度からねりっこクラブをスタートしましたが、これまでと変わらず様々な事業を学校応援団が担っています。中でも児童の登下校時の安全を守る「安全管理事業」は、他校ではシルバー人材センターへの委託等により行われていますが、高松小は学校応援団が実施しています。また、この事業では校外学習時の引率も行っています。

児童数が700人を超える学校ですが、一人ひとりの顔を覚え、朝の誘導でも「あの子がまだ来ないから、もう少し待とう」ときめ細やかな配慮もしているとのことでした。下校風景を取材した日はあいにくの雨模様でしたが「おかえりなさい」「さようなら」の声が行き交い、中学生や地域の方ともこやかに挨拶を交わしていました。



「学校」の旗を持って子供の安全を守ります



1年生も元気に「さようなら」の挨拶



雨の日も交差点に立ち12年目となります

### 《学校応援団を通じて伝わる地域の絆》



今回の紹介事例のように、地域の方々が子供たちに関わることで、子供たちと地域とのつながりができるとともに、小学校から中学校へ進級した後も、ずっとそこにいる地域の大人は、子供たちにとって身近で、頼もしい存在であり続けます。「学校応援団」の活動が地域の絆を体感する貴重な機会となり、成長した子供たちが地域社会への貢献を引き継いでいく、というサイクルができることを目指しています。

【問合せ】子育て支援課 学校応援団・開放係 [電話 5984-1057]

